分科会実践

高学年分科会　第６学年：特別活動

1　題材名　人権課題「インターネットによる人権侵害」　［個別的な視点からの取組］
　「ＳＮＳは怖い～便利と危険は隣り合わせ～」

2　ねらい
　ＳＮＳを通して自分の考えを発信する際は、相手のことを考えることができる。

3　人権教育の視点
　事例について考える活動を通して、インターネット上に、軽い気持ちで書き込んだ言葉が他の人の人権を侵害してしまうことがあることを知り、自他の権利を尊重し、ＳＮＳで言葉を発信する際の正しく安全な使い方を実践しようとする態度を育む。

4　学習活動
　ＳＮＳに関わる問題として、大きな話題にもなった事例を取り上げ、言葉を慎重に発信していくことの大切さを考える。話合い活動を通して、自分の考えと友達の考えを比べ、違いがあることを理解する。振り返りの時間では、自己を見つめ、これからの生活につなげる。

5　指導上の工夫と成果
(1)「言葉」について考えることで、日常生活においても相手の思いや立場を尊重しながら、コミュニケーションをとっていくことにつながった。
(2) ＳＮＳをテーマに取り上げたことで、相手の立場に立ち、気を付けて情報を発信していかなければならないことを考えるようになった。

私もそう思った！相手の気持ちも考えないと！

くまがわ分科会　くまがわ学級：体育

1　単元名　「とんで・わたって・ころがして、くまがわサーキットにチャレンジ！」［普遍的な視点からの取組］

2　目標
　友達を意識しながら運動したり、自己やペアの動きのよい点を見付けたり、それを伝えたりすることができる。

3　人権教育の視点
　多様な動きを身に付ける運動の中で、自分やペアの動きのよい点を認め、発表したり、様々な器具の準備や片付けを安全に協力して行ったりすることを通して、自分も相手も大切にする態度を育成する。

4　学習活動
　安全に気を付け、友達と協力して準備する。ペアでサーキット運動に取り組む。ペアの一人がもう一方の児童のよい動きを見付けて発表する。同じ活動を残りの児童も行う。

5　指導上の工夫と成果
(1) ペアで運動を見合い、お互いのよかったところを伝え合うことで互いを認め合うことができた。
(2) 体育の活動に参加できなかった児童が、教師による他の児童への価値付けの様子を見ていて、参加意欲が高まり、運動に参加することができた。
(3) 器具の準備や片付けを、ペアで協力して行うことで、自分も他の人も大切にする意識や態度が育ってきた。

○○さんの～が良かったです。

なるほど！すごい！

全校での取組

児童会・代表委員会による「あいさつ運動」

「あいさつを増やし、笑顔あふれる福生二小にしたい。」

そんな児童会の子供たちの思いや願いから、朝の「あいさつ運動」を行った。活動に際して、子供たちが自分で事前にポスターを作成して校内に掲示したり、放送によるあいさつを促す呼び掛けをしたりすることで、全校児童の「あいさつ」に対する関心・意欲を高めていった。

朝の 10 分間、児童会・代表委員会の児童が昇降口の前に立って、登校してくる人たちに「おはようございます。」の声を掛けると、相手からも元気いっぱいで気持ちの良い「あいさつ」が返ってきた。

「あいさつ運動」によって気持ちよく一日がスタートし、相手意識の芽生えが見られるようになった。

人権集会

人権について理解してもらうために、人権集会を実施した。人権を守るためには自分も相手も大切にすること、心を込めて挨拶すること、丁寧な言葉遣いを心掛けることなど、スライドを使って分かりやすく説明した。また、自分の頑張りに目を向けることも自分を大切にすることにつながると伝えた。

どの学年の児童も集中して話を聞き、人権について理解しようとしている様子が見受けられた。人権集会後は、自分からすすんで挨拶をする児童や言葉遣いを気に掛ける児童が少しずつ増えている。

たてわり班遊び

月に１回、昼休みに１年～６年・特別支援学級の児童によるたてわり班遊びを行っている。６年児童は計画を立てる際に、どの学年の児童も楽しめるような遊びを考えたり、ルールを工夫したりするなど、相手の立場に立って考える姿が見られる。また、遊びの終わりには次回何の遊びを行いたいか下級生に聞くことで、一人一人の気持ちを大切にしようとしている。相手意識、コミュニケーション能力の向上へとつながっている。

成果と課題について

１学期と３学期に行った人権アンケートの結果を比較すると、二つの項目で肯定的な回答の増加が見られた。

「自分の思いや考えを積極的に伝えようとしている。」では、低学年 79%⇒86%、中学年 65%⇒84%、高学年 73%⇒81%と上昇が見られた。学校全体としては、72%⇒83%と上昇した。自分の思いや考えを積極的に伝えようとしてきていることが分かる。

「自分には良いところがある。」では、低学年 76%⇒88%、中学年 78%⇒83%、高学年 71%⇒87%と上昇が見られた。学校全体としては、75%⇒86%と 11%上昇した。自分には良いところがあると考える児童が増えてきていることが分かる。

成果

◎教員が「人権とは何か。」を学ぶことで、人権を意識して児童と関わることができた。

◎「認め合い」を意識した活動を通して、互いの考えや意見を大切にすることにつながった。

◎人権集会、図書委員による読み聞かせ（人権をテーマにした本）、ありがとうポストなどの取組を通して、児童に人権について考える機会を多く設けることができた。

課題

△掲示物や整理整頓などの校内環境を整えていく。

△全教育活動の中で人権意識を育むという気持ちをもち、計画に基づいて実践していく。

△気持ちのよいあいさつ、丁寧な言葉遣いの大切さを継続して児童に伝えていく。

御指導いただいた先生方

・東京都人権施策専門家会議委員　元早稲田大学大学院客員教授　大江　近　先生
・東京都教育庁指導部指導企画課　統括指導主事　小野　憲明　先生
・東京都教育庁指導部指導企画課　指導主事　長島　寛和　先生
・福生市教育委員会　指導主事の先生方

研究に携わった教職員

◎研究推進委員長　〇研究推進委員

校長	湊　仁		
副校長	古井　進		
第１学年	加藤　奈美	梅田　雅之	
第２学年	若井　萌	〇村田　陸	
第３学年	〇石川　和哉	杉山　礼美	
第４学年	〇坂井　裕哉	紺野　日奈子	
第５学年	小野崎　忍	岡田　悠希	
第６学年	◎中村　麻衣	鷲澤　翼	
くまがわ学級	溝辺　正子	〇鈴木　紀子	長幡　純
	〇曽我石　美佳子		
専科	石政　智恵子	〇白濱　弥可	石倉　瞳
	釜谷　麻理江		